



2009年度(社)鶴岡青年会議所

アニュアルレポート

委員会中間報告

評価基準

評価について

山形ブロック協議会ブロック進化創造委員会が、8月例会までの2009年度各委員会活動・事業及び中間報告をもとに、客観的な事実を5項目の観点から踏まえて、5段階で評価を行う。

	評価基準の定義	5段階評価の基準				
		5	4	3	2	1
達成度	事業目的を実現できたかどうか。	大いに目標の成果あり	目標の成果あり	やや目標の成果あり	ほとんど目標の成果得られず	全く成果なし
公益性	公益に資するという観点から、事業が企画立案されているかどうか。	大いに公益性あり	公益性あり	やや公益性あり	ほとんど公益性なし	全く公益性なし
社会的影響度	事業を実施することで、実際に公益を増進させられたかどうか。	大いに社会に対する影響度あり	社会に対する影響度あり	やや社会に対する影響度あり	ほとんど社会に対する影響度なし	全く社会に対する影響度なし
内部影響度	今後のJCの活動を強化するための成果があったかどうか。	大いにメンバーに対する影響度あり	メンバーに対する影響度あり	ややメンバーに対する影響度あり	ほとんどメンバーに対する影響度なし	全くメンバーに対する影響度なし
発展性	主に「公益性」の観点から、その事業を継続して実施する意義があるか否か。	大いに発展性あり	発展性あり	やや発展性あり	ほとんど発展性なし	全く発展性なし

中間報告 広報委員会

委員会重点目標

- 地域社会につながる情報の輪(和)をつくろう。
- メンバー、新入会員、OB・OG会員の「和み」を創造しよう。
- 情報の利便性・共有性を強化しよう。

実施事業(8月まで)

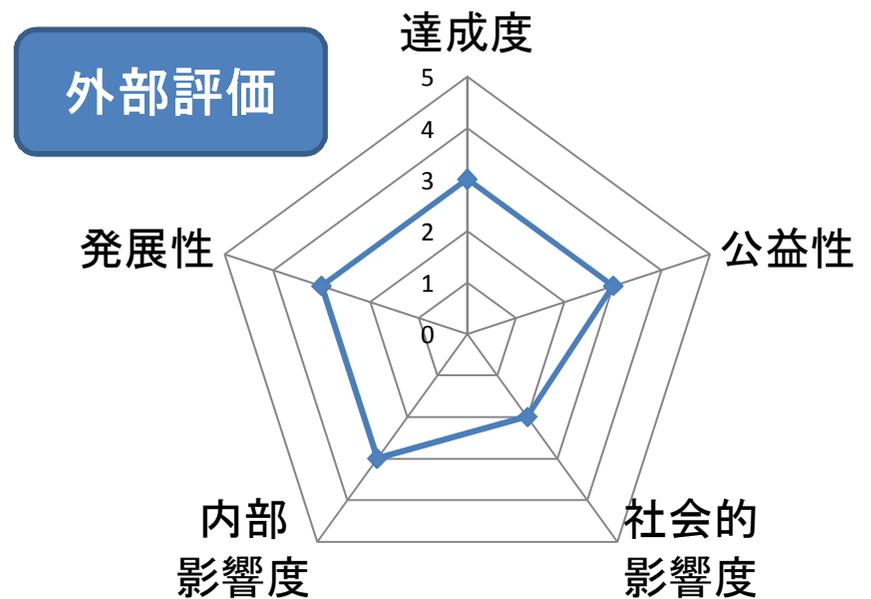
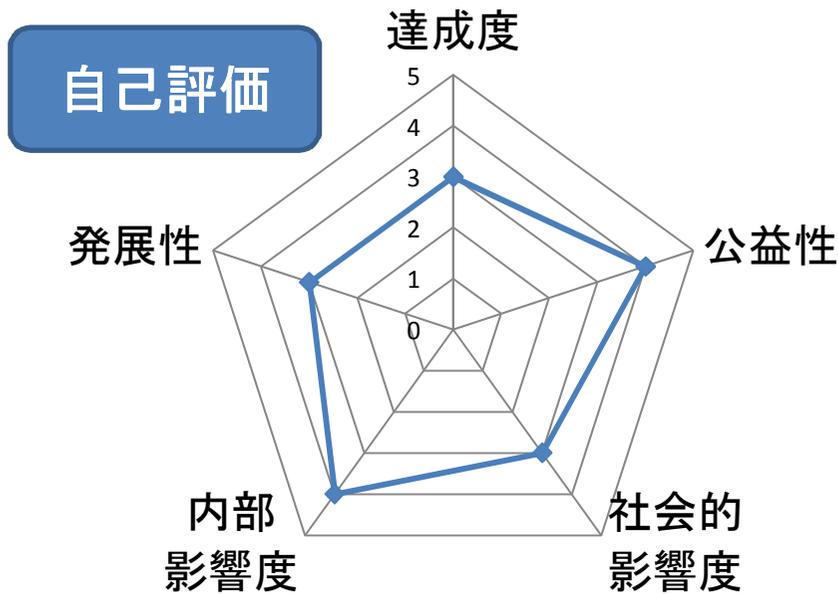
- 4月例会(コミュニケーションセミナー)
- OB交流会
- 広報誌発行
- ホームページ・データベース更新

<p>委員会活動の 中間検証</p>	<p>4月例会においては、セミナーを通して目標達成を試みましたが、参加者は120名を越え、終了後に参加者よりいただいたアンケートでは、概ね高い評価をいただきました。広報誌、ホームページに関しては情報の先取りを目標にがんばっておりますが、まだ達成しきれない面も多々ございます。地域間、メンバー間でもっと情報の共有性を図るべく、まだまだやる必要があります。</p>	
<p>委員会改善点</p>	<p>委員会の運営上、委員会メンバーの参加率向上が必要です。そのためには、委員長が予定を先取りし、委員会メンバーが集まりやすい環境を整えることが第一です。また、委員会に参加できなかったメンバーに対するフォローも必要です。また、この委員会では事業活動におけるスピードアップも必要で、情報公開に関しては特に他委員会に依頼されることもあるので、さらに努力が必要です。</p>	
<p>外部評価</p>	<p>根拠</p>	<p>公益法人として情報公開は、しなければならないと定められていますが、情報公開自体は公益事業ではありません。ホームページや広報誌は見やすくきれいで素晴らしいと思います。4月例会は、報告書やホームページなどから公益性のある事業と考えられますが、効果が薄いように感じられました。</p>
	<p>改善提案</p>	<p>情報公開に必要な10項目の中で、ホームページでは半分くらいリンク切れや未掲載のようです。</p>

中間報告 広報委員会

評価基準項目		達成度	公益性	社会的影響度	内部影響度	発展性
評価点	自己評価	3	4	3	4	3
	外部評価	3	3	2	3	3

例会出席率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
	50.0%	25.0%	25.0%	62.5%	37.5%	12.5%	50.0%	75.0%	42.2%



委員会重点目標

- 公開例会を行うことで、市民の政治・行政に対する認知・関心度を高めると共に、メンバー一人ひとりの人間力向上を図る。委員会メンバー全員が話し合い、意見を持ち寄り、力を合わせ学んだことを、公開例会の場に落とし込み、参加者一人ひとりのモチベーションのアップを期待し、その効果が我が鶴岡の未来を動かしていく原動力に繋げていく。
- 「鶴岡らしさとは何か？」を再認識する機会を設け、地域の人々とともに考え行動する。未来に思いを繋げる可能性を秘めた事業なので、広く発信・公開し伝えていくことが第一歩である。
- 防災・危機管理においてJCと地域の「和」を築き、地域の人に災害に対する常日頃からの意識を向上させる。現状把握・備蓄・自治体における防災対策など、これからの街づくりに不可欠な要素を検証し、小さな一歩の踏み出しが大きな波に変わるきっかけを発信する。

実施事業(8月まで)

- 3月例会(心がけよう小さな防災！そのときあなたは何かができるのか！)

委員会活動の 中間検証

テーマ「防災」はかなり難しい内容でした。外のイベントと講演内容とをリンクすることが出来ればよかった。TADSネットについてはメンバー及び一般市民の方に詳しく周知していただけた内容とはいかなかったが、青年会議所の活動の一部として災害ネットワークがあるということを提示することができて良かった。防災を考える機会を作り、災害は身近にあるということを認識して頂けた事が一番の収穫であり、これからもこのような防災に対する例会は継続していただきたいと思う。

委員会改善点

3月例会については委員会メンバーが意見も持ち寄り、それを形にし、担当を決め、不慣れなポジションをこなすといった経験ができたのではないのでしょうか。しかし、担当例会が近づくにつれ、委員会への出席が増え頼もしく思ったものの、その他の例会への出席率が低いのもっと参加促進をしなければいけない。そして次回の例会に向けてメンバーのモチベーションを高くしていきたい。

外部評価

根拠

災害や危機管理について地域の方と一緒にになって取り組むということは必要なことだと思います。事業内容は、公益性の高い事業だと思います。

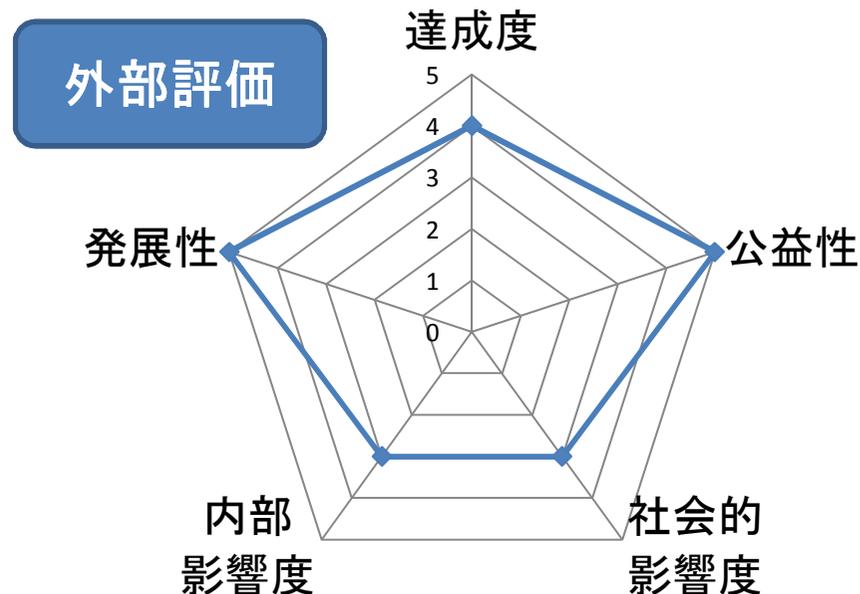
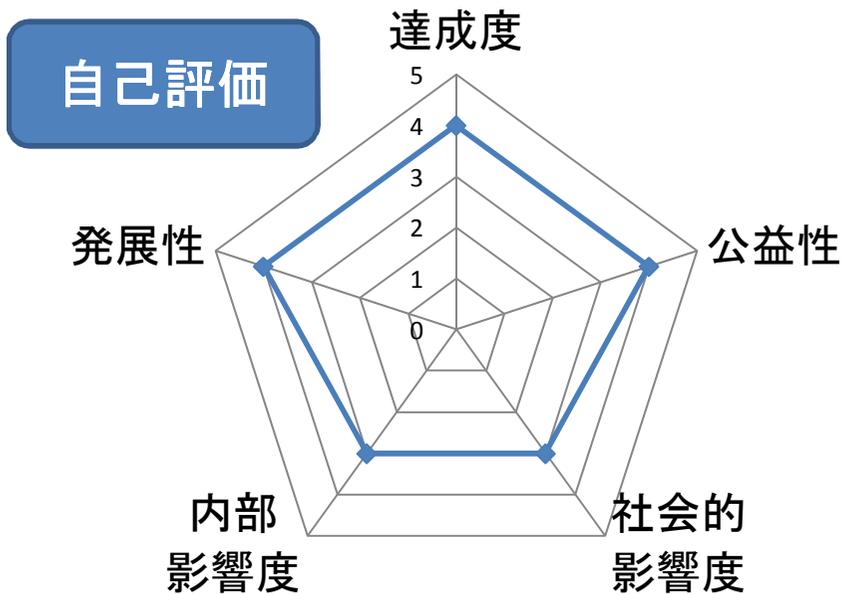
改善提案

集客に関してもう少し工夫があれば、メンバーや一般参加者もっと増えたように思います。またアンケートに事業の継続とありましたが、単年度制のJCではなかなか難しいことなのですが、一回の開催で終わるのではなく、継続することで多くの市民の意識を変えていくことにつながると思います。

中間報告 政策委員会

評価基準項目		達成度	公益性	社会的影響度	内部影響度	発展性
評価点	自己評価	4	4	3	3	4
	外部評価	4	5	3	3	5

例会出席率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
	60.0%	40.0%	80.0%	30.0%	10.0%	0.0%	70.0%	90.0%	47.5%



中間報告 青少年委員会

委員会重点目標

- わんぱく相撲大会の成功。
- 食育事業を通してLOMと地域とのコミュニケーションを図る。

実施事業(8月まで)

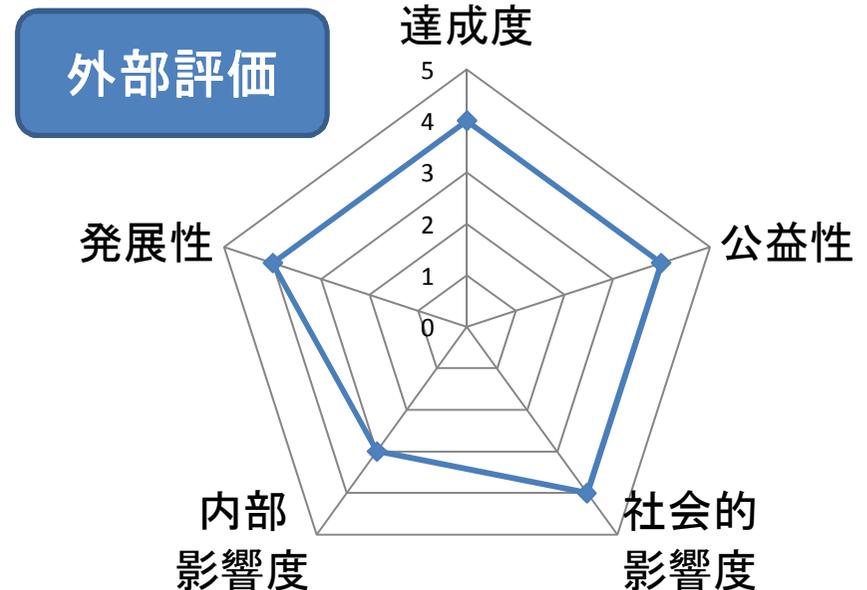
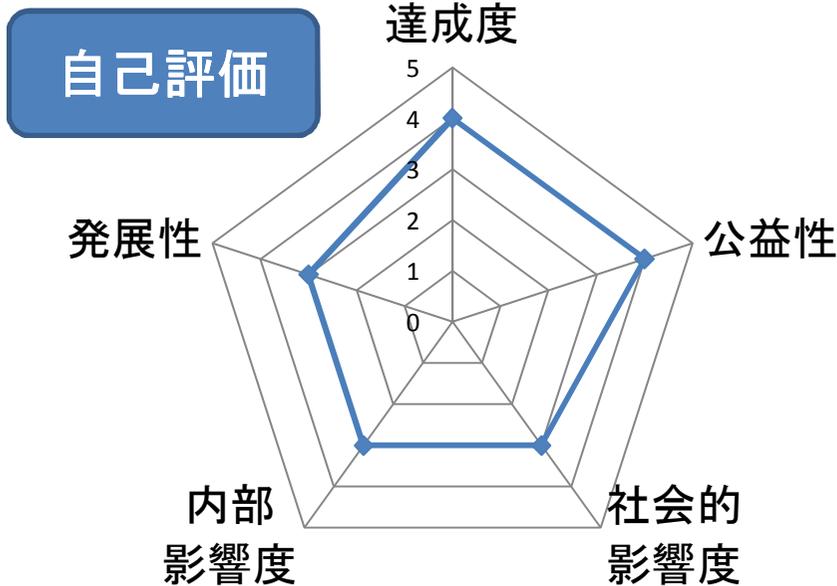
- 5月例会(わんぱく相撲鶴岡田川地区大会)
- わんぱく相撲山形ブロック大会
- わんぱく相撲全国大会

委員会活動の 中間検証	わんぱく相撲のすべての関連事業は終了しましたが、事業そのものに対して問題点等は特にありませんでしたが、事前の準備や終わってからの礼状発送など、行動が遅くなってしまったことなど問題点が多数あったと思います。委員会メンバーは協力しあい、結構まとまっていた方だとは思いますが委員長の私自身が自分でやってしまうという点も見られました。	
委員会改善点	委員会の改善点としては、委員長が色々やることもいいのですが、委員会メンバーに仕事の割り振りをすることも必要。それでもどうしてもわからない点などがあれば、担当の室長や副理事長、他委員会のメンバーに協力を求めるということもできるので、協力してもらおう。とにかく委員会メンバーと一致団結し、残っている事業に全力投球する。	
外部評価	根拠	継続して行われている事業(わんぱく相撲)で、地域の小学生の参加も多く、これまでもこの事業を通し国技である「相撲」から多くの子供達に夢と希望を与え、子供達の健全な発育に良い影響を与えていると思います。ですのでこれからもこの事業を相撲連盟と共催という形ではあれ、継続する意義というのはいかにあると思います。
	改善提案	継続した事業ですので、しっかりと引継ぎを行っていただければ、失敗はなくなっていくものと思います。資料だけの引継ぎでは見えない部分もありますので、その部分が継続事業の引継ぎの課題となると思います。

中間報告 青少年委員会

評価基準項目		達成度	公益性	社会的影響度	内部影響度	発展性
評価点	自己評価	4	4	3	3	3
	外部評価	4	4	4	3	4

例会出席率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
	75.0%	62.5%	62.5%	37.5%	100.0%	100.0%	87.5%	100.0%	78.1%



委員会重点目標

- LOMメンバーが積極的に対外との交流を行うため、今年度のJC活動を他団体から周知して頂く
- 鶴岡市の代表行事である天神祭への参加の促進を行う
- 七夕献血への参加協力をを行い、他団体との連携を深め、献血の大切さを多くの人に周知させる
- 認承証伝達式を行い新入会員を温かく向かい入れる
- 10月例会を行い鶴岡地域の活性化を図る

実施事業(8月まで)

- 1月例会(新年賀詞交換会・事業説明会)
- 天神祭
- 七夕献血
- 認承証伝達式

委員会活動の 中間検証

1月例会はすべての面で委員長の経験不足が出でしまい、ミスが連発で事業を行ってしまいました。出席されたご来賓やOBOGの方に失礼な点がただ多かったかと思えます。認承証伝達式は懇親会を含め大変盛り上がり新入会員を暖かく迎え入れたと思えます。天神祭りと七夕献血は多くのメンバーから参加して頂き地域や他団体との交流が出来たと思えます。

委員会改善点

1月例会は確認事項を怠った事が原因でミスが出てしまいましたが、委員長として委員会メンバー一人一人に委員長の思いを伝え、自覚を持って取り組んでいくように指示をしていければと思えます。認承証伝達式も同じく委員会メンバー一人一人に思いも伝え一致団結して事業をつくらなければならと思えました。天神祭りと七夕献血は地域交流が目的なら、参加するだけでなく何かを手がけ盛り上げるような事をする必要があると思えます。七夕献血はもっと宣伝をしてJCメンバーだけでなく、会社や知人等に告知して参加者を増やしていければと思えます。

外部評価

根拠

1月例会と認承証伝達式は公益事業ではありませんが、外部への鶴岡青年会議所の事業の発信や外部やOBとの情報交換・交流、また新入会員への激励とメンバー間の交流などから、継続していくことが望ましいと思えます。天神祭、七夕献血の事業は報告書がなかったので分かりませんでした。公益性のある事業だと思えます。

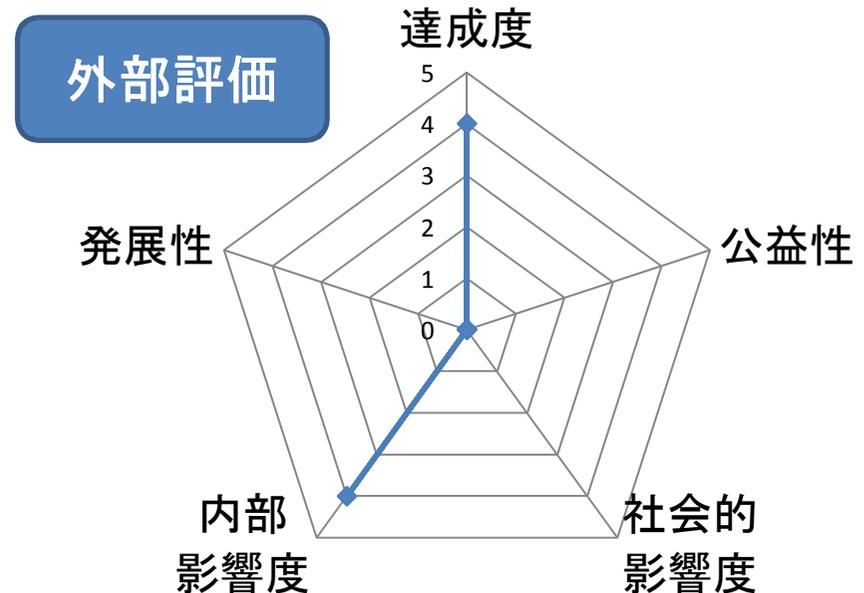
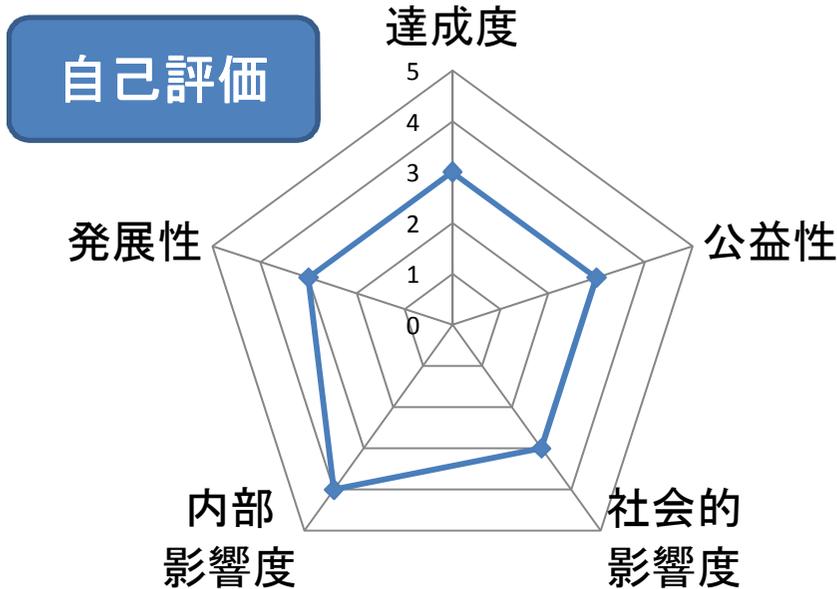
改善提案

1月例会に懇親会の部分も記入されているので、その部分の飲食費なども決算に入ってきます。懇親会の予算を鶴岡青年会議所の会計に入れないのであれば、懇親会の部分は事業と分けて、別会計にしておく必要があります。

中間報告 地域コミュニティ委員会

評価基準項目		達成度	公益性	社会的影響度	内部影響度	発展性
評価点	自己評価	3	3	3	4	3
	外部評価	4	—	—	4	—

例会出席率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
	100.0%	50.0%	37.5%	87.5%	75.0%	50.0%	87.5%	100.0%	73.4%



中間報告 会員大会支援委員会

委員会重点目標

- 会員大会を通し、メンバー一人ひとりの新たな可能性の開拓をし、新しい絆を創り広げる。そして、ひとりひとりが「新しい鶴岡らしさ」を創造できる人財になる
- 1. 多くの事業に参加し多くを「知り」、多くの「和」を創り広げる
- 2. 「できない」といわず、何事にも「チャレンジ」する自分を「創る」

実施事業(8月まで)

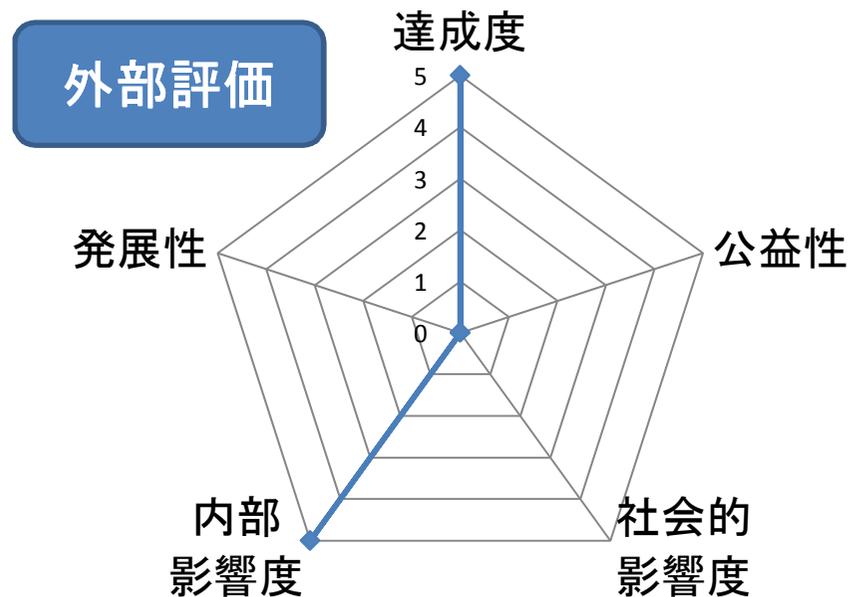
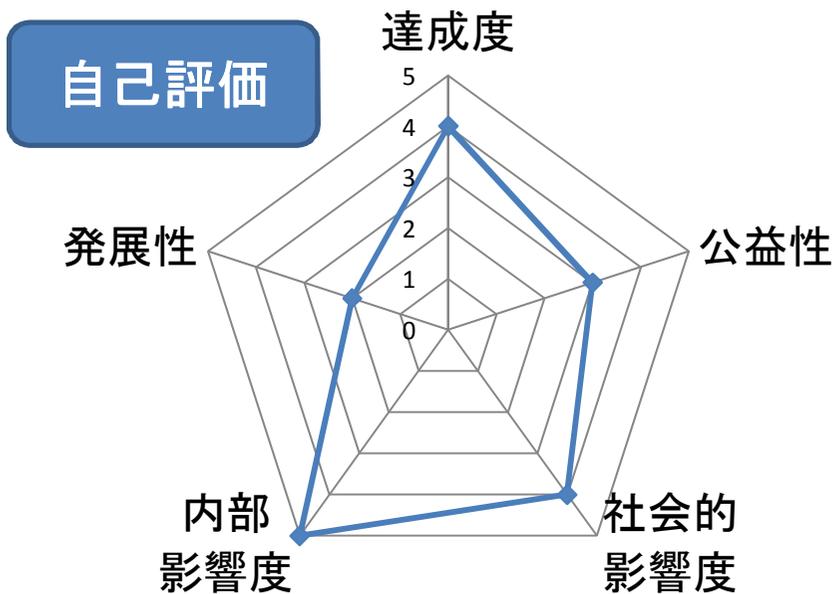
- 6月例会(会員大会啓発推進事業)
- 7月例会(会員大会鶴岡大会)
- 鶴岡PR事業

<p>委員会活動の 中間検証</p>	<p>7月の会員大会を盛り上げるべく全ての事業に取り組んできた。その過程においてメンバー一人ひとりが自分の役割をこなしていく上で、自己進化への挑戦(可能性の開拓)を実践してきたと感じている。その結果として個人が成長し担当委員会事業の盛り上がりにつながったと考えている。また、この経験が個人の財産となり今後の委員会活動、JC活動に生きてくることを期待している。</p>	
<p>委員会改善点</p>	<p>担当事業はすべて終了しているため、JC活動も少なくなっている。そのため気が抜けるような状況でもあるが、今年度担当事業を通して感じた自己進化への挑戦を続けるためにも今後のJC活動へ積極参加し、多くを知り多く和を作り広げる意識をメンバー一人一人持ち続けることが必要であると考えます。</p>	
<p>外部評価</p>	<p>根拠</p>	<p>会員大会のメインフォーラム以外のほとんどはブロック内メンバーの為の内向きの事業ですので公益性はありません。またその支援としても公益性はないと思います。ですが鶴岡青年会議所が一丸となった絶大な支援があり、県内のメンバーの心に残るとても素晴らしい鶴岡会員大会だったと思います。ですので事業目的の達成や内部への影響は大きいと思います。</p>
	<p>改善提案</p>	<p>特にありません。</p>

中間報告 会員大会支援委員会

評価基準項目		達成度	公益性	社会的影響度	内部影響度	発展性
評価点	自己評価	4	3	4	5	2
	外部評価	5	—	—	5	—

例会出席率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
	44.4%	44.4%	55.6%	66.7%	66.7%	88.9%	100.0%	88.9%	69.4%



中間報告 交 流 委 員 会

委員会重点目標

- 庄内3LOM間の連携を深める事により、次世代につなぐ大きな和「輪」を築く
- 卒業生がより一層飛躍する事を願い、感動溢れる卒業式で贈る

実施事業(8月まで)

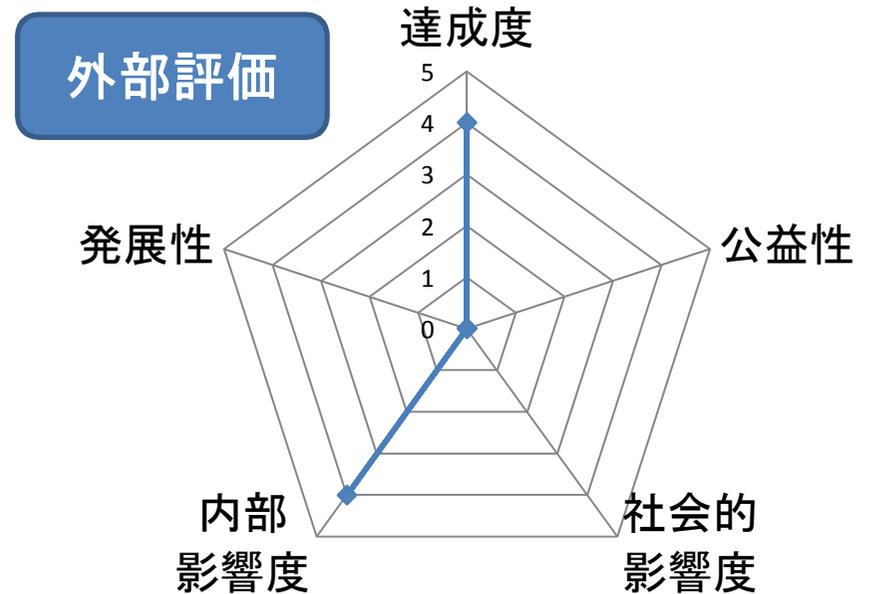
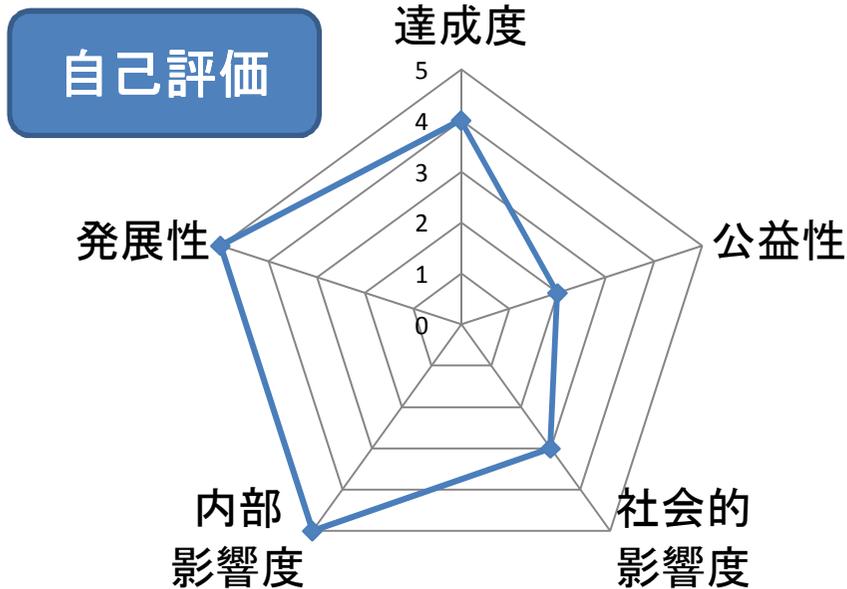
- 2月例会(3LOM合同例会「山形ブロック協議会会長公式訪問」)

委員会活動の 中間検証	3LOM合同例会については、委員会をこまめに開催してメンバーや他LOMとの連携をより深めることができ、今後の活動の幅を広げることができた。その後の懇親会でも出席者が多く非常に楽しく有意義な時間を過ごせたとおもいます。来年度以降も3LOMの連携を今以上に深め、事業やJC活動に役立てて行きたいと思えます。	
委員会改善点	委員会メンバーが自分以上に頑張ってもらった。室長や副理事長の3LOM間のネットワークの広さに驚かされたので、これからは自分をもっと磨き、沢山の人脈をつかみJC活動に励んで行きたいと感じました。	
外部評価	根拠	対内事業ですので、公益性はありません。 山形ブロック協議会会長公式訪問は、日本青年会議所や山形ブロック協議会の方向性をメンバー全員が共有するために重要な事業です。また庄内地区内のLOMで行う合同例会もお互いの交流を深めネットワークを広げ、今後の庄内地区のまちづくりにつながるとおもいます。
	改善提案	特にありません。

中間報告 交 流 委 員 会

評価基準項目		達成度	公益性	社会的影響度	内部影響度	発展性
評価点	自己評価	4	2	3	5	5
	外部評価	4	—	—	4	—

例会出席率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
	57.1%	85.7%	28.6%	57.1%	28.6%	42.9%	85.7%	71.4%	57.1%



中間報告 日本一花火委員会

委員会重点目標

- 第十九回赤川花火大会を大成功に導く。
- 次世代赤川花火を検証する。
- 河川環境事業を通して環境意識の向上を図る。

実施事業(8月まで)

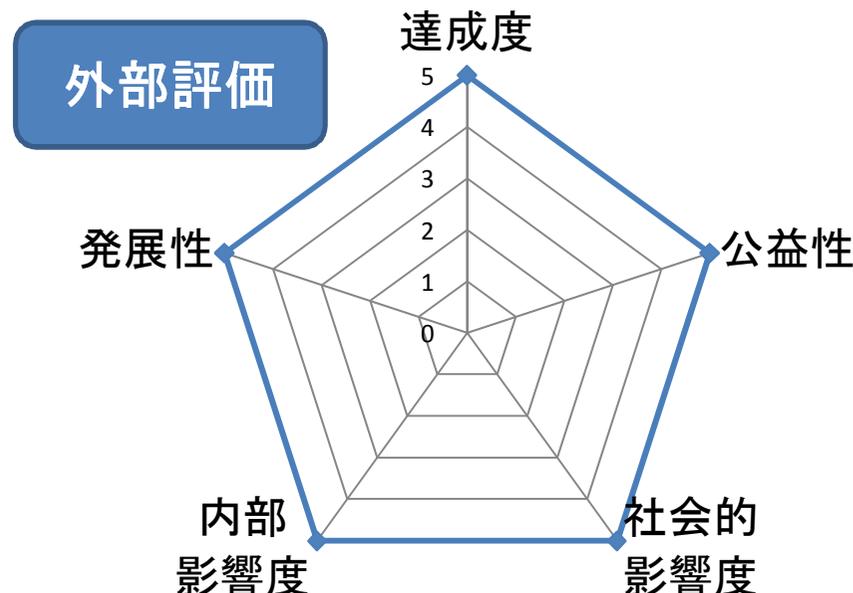
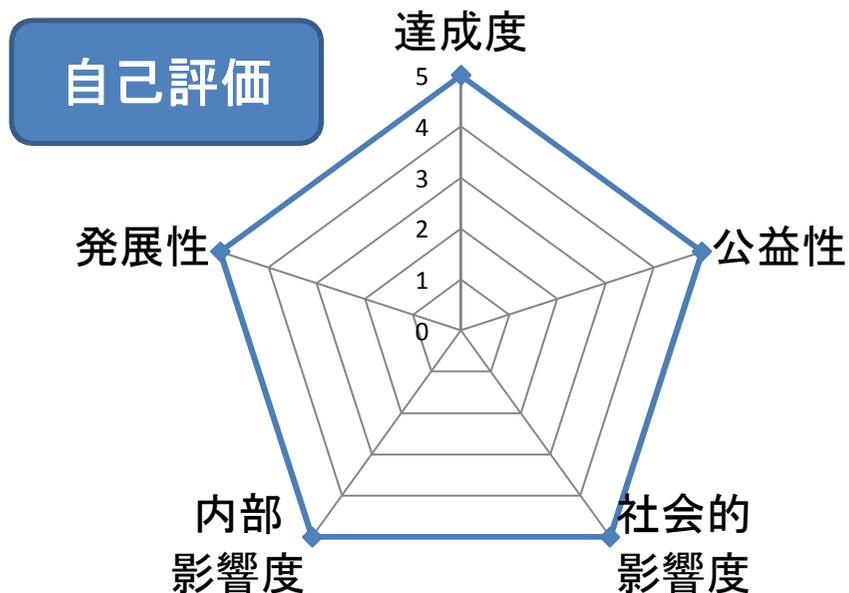
- 赤川河川事業
- 8月例会(第十九回赤川花火大会)

<p>委員会活動の 中間検証</p>	<p>当委員会担当事業、赤川河川事業・第十九回赤川花火大会どちらの事業におきましても天候の不安定にもかかわらずJCメンバー皆様からのご協力の下成功に導く事ができたと思います。委員会メンバーの活動両事業におきまして、一部意識の改革ができなかった点、他委員会への協力体制全て私の力不足な点がございました。新入会員から多大なご協力が得られた点は良かった。</p>	
<p>委員会改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・赤川河川事業の予算に公益性のある使用項目が必要とされる。 ・大会規模拡大に応じた体制作りの見直しは、内部での組織作りの見直しが必要である。 ・赤川花火大会への公益的関わりを模索する。 ・新入会員への花火組織の周知の方法。 	
<p>外部評価</p>	<p>根拠</p>	<p>赤川花火大会は、鶴岡青年会議所の大きな柱となる事業だと思います。規模や集客もますます多くなるなかで、河川清掃や花火大会での仮設トイレの設置を増やし、環境面から支援をし、多くの市民の方への貢献は大きいと思います。</p>
	<p>改善提案</p>	<p>赤川花火大会実行委員会と共催というなかで、鶴岡青年会議所の貢献度はかなり大きいと聞いています。その部分が事業としてあげられない所が今後の課題だと思います。</p>

中間報告 日本一花火委員会

評価基準項目		達成度	公益性	社会的影響度	内部影響度	発展性
評価点	自己評価	5	5	5	5	5
	外部評価	5	5	5	5	5

例会出席率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
	76.9%	46.2%	61.5%	69.2%	46.2%	46.2%	70.6%	76.5%	65.1%



中間報告 事務涉外委員会

委員会重点目標

- 総会、例会セレモニー及び会議等の速やかな進行を行う。
- 理事長・専務理事が、本来職務に専念できるような後方支援を行う。
- 各種案内・資料配信を確実に且迅速に行う。

実施事業(8月まで)

- JCLレポート作成
- 名簿作成
- 定時総会
- 内川清掃作業

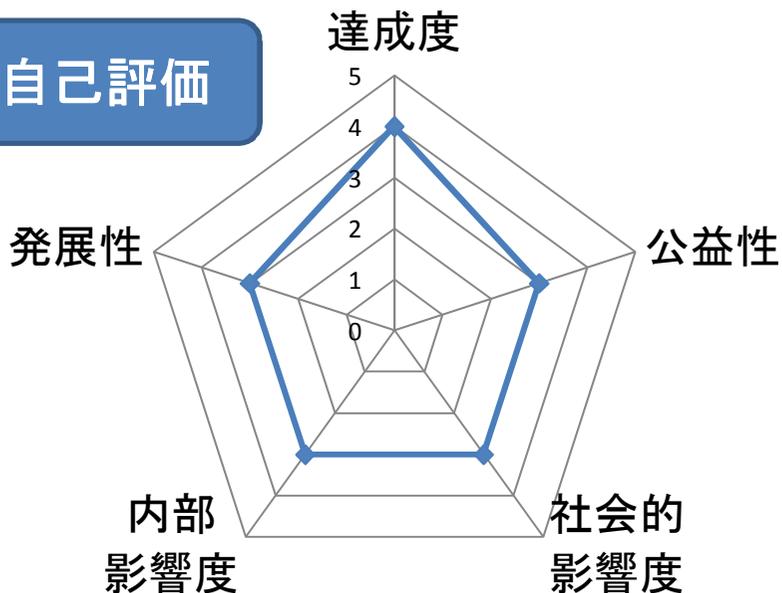
<p>委員会活動の 中間検証</p>	<p>8人の人員で、正副常任ミーティング・理事会・例会セレモニーの月例行事設営と、各種大会への参加促進・登録・行程企画等の業務をこなしてきたことには及第点を頂けると思う。公益的な事業(JCLレポート作成)で、(社)鶴岡青年会議所の活動を広くアピールできたかは、方法等を含め深慮する余地が残っていたと感じる。</p>	
<p>委員会改善点</p>	<p>他の委員会よりも、他LOMや山形ブロック等の事業に参加する機会が恵まれており、そこでの様々な活動に触れることにより学び得たことを進化させる為の活動ができなかった。JCLレポート作成に関して、従来の冊子形式の有効性を再検証し、費用や公益性の面からホームページ掲載等の方法も考慮に入れるべきであると思う。</p>	
<p>外部評価</p>	<p>根拠</p>	<p>事業自体に公益性はありませんが、LOMとして活動・運営していくのに重要な事業ばかりだと思えます。</p>
	<p>改善提案</p>	<p>公益法人化への対応が職務分掌にはいっているようです。LOMメンバー特に理事者の知識や意識付けが必要となってくると思います。</p>

中間報告 事務涉外委員会

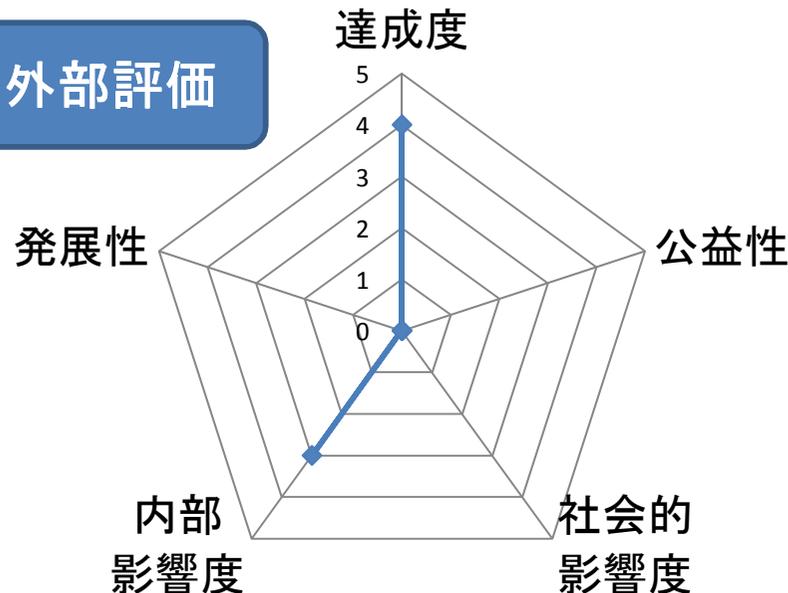
評価基準項目		達成度	公益性	社会的影響度	内部影響度	発展性
評価点	自己評価	4	3	3	3	3
	外部評価	4	—	—	3	—

例会出席率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
	62.5%	50.0%	62.5%	75.0%	62.5%	75.0%	75.0%	75.0%	67.2%

自己評価



外部評価





2009年度(社)鶴岡青年会議所

アニュアルレポート

出向者中間報告

出向者報告 恩田健次

日本青年会議所

JCガバナンス確立会議 副議長

出席回数

21回 / 21回

活動の 概要・目的

日本JCは、「明るい豊かな社会の実現」という創始の崇高な理念を遂げるべく、今まさに、新公益法人制度改革に対応した組織進化を図り、リアリティと説得力を持ち合わせ、日本のJC運動の価値と効果が最大化される組織形成が必要です。そこで、従来進めてきた組織進化とJC運動の一貫性を融合することで運動論に基づく組織進化を遂げ、本会と地区・ブロック協議会における運動方針が統制されたJCガバナンスの確立を図ります。JCガバナンスを確立することで、協議会との有機的でリアリティある組織連携と日本JC運動の最大化が実現され、ひいてはJC運動の本質と高い公益性の両立による社会的信頼の獲得に繋がり、アドマイヤー型社会の実現に向けた「真日本建国」を創造します。→担当第2小会議体【内容】ブロック会長会議意見交換会、セミナーの開催、日本JCコーポレートガバナンス作成、引き継ぎの為のガバナンスプログラム作成

活動の 中間報告

2009年度は、運動論における組織進化を考えることで、JCガバナンス確立会議は1年間、過去のデータ、ブロック会長会議、各種大会のセミナーを通じて、JCガバナンスの強化や情報集約を図り、組織進化に努めた。感じたことは、日本JC本会と各協議会のJC運動に対する見識の違いや温度差である。さらには、日本JCの提唱するJC運動に対する各協議会の意識の格差。1983年から組織進化を図ることが使命とされ、その頃より問題提議されてきた案件に対しては今日までの26年間、僅かな進化はあるものの何の解決に至らない現実があった。正直、組織進化においては抜本的改革が必要な組織であると言える。→【現在】日本JCコーポレートガバナンス作成、引き継ぎのためのガバナンスプログラム作成

日 本 青 年 会 議 所

JC ガ バ ナ ン ス 確 立 会 議 幹 事

出席回数

7 回 / 7 回

活動の 概要・目的

日本JCは、「明るい豊かな社会の実現」という創始の崇高な理念を遂げるべく、今まさに、新公益法人制度改革に対応した組織進化を図り、リアリティと説得力を持ち合わせ、日本のJC運動の価値と効果が最大化される組織形成が必要です。そこで、従来進めてきた組織進化とJC運動の一貫性を融合することで運動論に基づく組織進化を遂げ、本会と地区・ブロック協議会における運動方針が統制されたJCガバナンスの確立を図ります。JCガバナンスを確立することで、協議会との有機的でリアリティある組織連携と日本JC運動の最大化が実現され、ひいてはJC運動の本質と高い公益性の両立による社会的信頼の獲得に繋がり、アドマイヤー型社会の実現に向けた「真日本建国」を創造します。

活動の 中間報告

1月の京都会議においては 日本JC本会と協議会が連携しJC運動の価値の最大化を目指すための「JCガバナンス確立」セミナーを開催しました。7月のサマコンでは、公益法人制度改革を背景に、各協議会が組織運営をしている中で現在生じている諸問題に対応するため「組織進化とガバナンス確立に向けた相談スクエア」を設置し、相談会を行ないました。また、毎月行なわれるブロック会長会議において、リアリティと説得力を持ち合わせた機能確立における意見交換会を都度実施しております。また、2010年度以降、更なる社会からの信頼と負託に応える為、組織の運営をわかりやすく示したツールとして冊子「日本JCコーポレート・ガバナンス」を策定中です。さらにLOM、各協議会出向者、日本JC出向者向けに、日本JC組織進化の歴史やガバナンスの必要性をわかりやすく説明するためのパワーポイント「日本JCガバナンスプログラム」を策定中です。

出向者報告 草 島 孝 志

日本青年会議所 「真日本建国」創造会議 委員

出席回数	
7 回 /	回

活動の 概要・目的

世界情勢が混迷を極め、わが国でも未曾有と言われる経済不況や社会の荒廃、教育の後退、矜持なき外交が招く国際問題など、様々な難問に直面しています。このような状況から脱却するためJAYCEEによる真の民主国家日本の創造が、今求められています。

「真日本建国」創造会議は、つよい国民性に育まれた世界から最も信頼されるやさしい国家「真日本建国」を目指していきます。

そこで将来を見据えた「真日本建国」の姿を国民に発信し、目指すべき国の将来像を明確に提示していきます。その上で国民の国家に対する思いを抽出し、一人一人の意識が「国家愛」へと繋がるよう、国民世論の形成をはかっていきます。そのため、価値ある情報の受発信を行なう広報PR活動を積極的に展開し、国民意識に「真日本建国」の意義を浸透させると同時に、国政を担う国会議員等とも連携し、国民世論を背景にした政策提言を果敢に行ない、「真日本建国」創造が一大国民運動となるよう、積極的な活動を展開していきます。

活動の 中間報告

「真日本建国」創造への潮流を全国に創出していくため、京都、横浜、沖縄の3カ所でフォーラムの開催を予定し、現在、京都、横浜を成功裏に終わらせることができました。

1月24日の京都会議ではペマ・ギャルポ氏を講師に招き、「自分づくりから始まる国づくり」のテーマのもとに多彩な討議が行なわれ、「つよい国民性とやさしい国家」という日本人の誇りを一人一人が自覚し、アドマイヤー型社会の実現に向けて決意を新たにしました。

7月に開催された横浜フォーラムでは、各界で活躍する著名人を多数招き、山積する内外の諸問題を超克し、国際社会での日本の位置づけを明確にするための方途を探り、まさに第三の開国とも言うべき内容となりました。

2つの大会を通じて高まった意識を、今度はその掉尾を飾る10月17日の沖縄に集約し、最高潮のうちに「真日本建国」創造運動を国民運動にまでに高めたいと考えています。

日本青年会議所

JCガバナンス確立会議 委員

出席回数

5 回 / 7 回

活動の 概要・目的

日本JCは、「明るい豊かな社会の実現」という創始の崇高な理念を遂げるべく、今まさに、新公益法人制度改革に対応した組織進化を図り、リアリティと説得力を持ち合わせ、日本のJC運動の価値と効果が最大化される組織形成が必要です。そこで、従来進めてきた組織進化とJC運動の一貫性を融合することで運動論に基づく組織進化を遂げ、本会と地区・ブロック協議会における運動方針が統制されたJCガバナンスの確立を図ります。JCガバナンスを確立することで、協議会との有機的でリアリティある組織連携と日本JC運動の最大化が実現され、ひいてはJC運動の本質と高い公益性の両立による社会的信頼の獲得に繋がり、アドマイヤー型社会の実現に向けた「真日本建国」を創造します。→担当第2小会議体【内容】ブロック会長会議意見交換会、セミナーの開催、日本JCコーポレートガバナンス作成、引き継ぎの為のガバナンスプログラム作成

活動の 中間報告

3小会議に別れ、当小委員会では、
①リアリティと説得力あるJCガバナンス確立に向けた研究・発信
②JC運動の価値の最大化を目指した地区・ブロック協議会機能の確立に向けて2009年度から2010年度への引継ぎの強化、及び、2010年度の日本JC本会及び協議会出向者が同じ意識と考え方を持ち事業展開し日本のJCの運動の価値の最大化をより効果的に推進するように、10月下旬開催のセミナーを準備中。

日 本 青 年 会 議 所

JC ガ バ ナ ン ス 確 立 会 議 委 員

出席回数

4 回 / 7 回

活動の 概要・目的

従来進めてきた組織進化とJC運動の一貫性を融合することで運動論に基づく組織進化を遂げ、日本JC本会と地区・ブロック協議会における運動方針が統制されたJCガバナンスの確立を図る。JCガバナンスを確立することで、協議会との有機的でリアリティある組織連携と日本JC運動の最大化が実現され、ひいてはJC運動の本質と高い公益性の両立による社会的信頼の獲得に繋がり、アドマイヤー型社会の実現に向けた「真日本建国」を創造する。

1. リアリティと説得力あるJCガバナンス確立に向けた研究・発信。
2. JC運動の価値の最大化を目指した地区・ブロック協議会機能確立。
3. 日本JC運動の検証と自己評価及び進捗管理の実施。
4. 関係団体との対応窓口

活動の 中間報告

会議体として、1月の京都会議では日本JC本会と協議会が連携しJC運動の価値の最大化を目指すための「JCガバナンス確立」セミナーを開催した。7月のサマコンでは、公益法人制度改革を背景に、各協議会が組織運営をしている中で現在生じている諸問題に対応するため「組織進化とガバナンス確立に向けた相談スクエア」を設置し、相談会を行った。また、毎月行なわれるブロック会長会議において、リアリティと説得力を持ち合わせた機能確立における意見交換会を都度実施した。また、2010年度以降、更なる社会からの信頼と負託に応える為、組織の運営をわかりやすく示したツールとして冊子「日本JCコーポレート・ガバナンス」を策定中。さらにLOM、各協議会出向者、日本JC出向者向けに、日本JC組織進化の歴史やガバナンスの必要性をわかりやすく説明するためのパワーポイント「日本JCガバナンスプログラム」を策定中。個人的には会議体へいまひとつ貢献できていない。

出向者報告 渡辺孝之

東北地区協議会

東北ゼミナール委員会 委員

出席回数

7 回 / 9 回

活動の 概要・目的

- ・自立した国益に寄与できる「強い東北創造」の為に地域を担う強いJAYCEE(真摯な態度と謙虚な姿勢)づくり。
- ・アカデミー: 施策の受け身・仲間づくり / ゼミナール: 施策の授け身・自分づくり
- ・東北は自給率115%にも上る食宝庫という事を自覚し「地産地消」または「地産地商」に全てを傾注し、東北市民意識変革運動を展開していく。
- ・官民一体となり取り組む条例制定の推進を始めとする「地産地消白書」を作成。
- ・郷土愛=東北版ローカルファーストの実践。
- ・ASPAC長野大会への参加

活動の 中間報告

- ・地域(鶴岡市)における地産地消意識調査。
 - ・「美人すぎる議員」八戸市藤川優里議員との八戸研修バスツアー参加。
 - ・ASPAC長野大会へブース出展(餅つきで祭りの雰囲気を出す・各県特産品のトッピング)
 - ・農家の実態調査・新規アイデアを探る。
 - ・東北青年フォーラム分科会開催。
- 2月: 仙台 3月: 北上 4月: 秋田 5月: 八戸 6月: 長野 7月: 米沢 8月: 南相馬、北上 9月: 南相馬

出向者報告 板垣 一紀

山形ブロック協議会

副会長

出席回数
25 回 / 30 回

活動の 概要・目的

【山形ブロック17LOMによる「環境」に関する協働運動】の企画・実施
喫緊の共通問題に対し、老若男女の誰もが参加しやすい地域に適した協働運動を実践することで、17LOMのメンバー間、LOM間、そしてLOMと地域が自らの責任と使命を自覚し、相互理解を深める事により運動の一体感を高め、自律したつよい県民意識の醸成を図っていきます。
また山形ブロック協議会のスケールメリットを活かし、県域に対して継続性や一貫性のある運動を実践することにより、JC運動の訴求力を高めると共に、より多くの県民、関係諸団体を巻き込んだ効果的な市民意識変革運動へ繋げていきます。
次世代を担う子供たちの為に、安心して暮らせる郷土を残す為に、JCが発信する「OMOIYARI」の心を県民一人ひとりに広げ、こんな時代だからこそお互いを助け合う相互連携によって効果の高い協働運動を展開し、無限の可能性を創出するアドマイヤー型社会を創造し、「真日本建国」を実現することを目的とします。

活動の 中間報告

開催当日はあいにくの雨の中、2008年度855名、2009年度947名のご参加を頂き、「環境」に関する「OMOIYARI」の心をもった運動の必要性を幅広く発信できました。
回を重ねる毎に、この協働運動の参加者の増加や、連携して運動を展開する各種団体が増えている状況からも、この運動の地域への広がりから、県内の「環境」に対する意識の高揚が伺えます。
継続事業として回を重ねるごとにJCメンバーをはじめ、市民の参加者が増加傾向にあり、また山形県や各市町村、並びに各企業や各種団体など、他団体との柔軟な連携体制が構築されてきている中、「OMOIYARI」を持って人と人が繋がりを深め、共に行動していくことの大切さを共有することで、今以上に効果的な将来性のある運動へ、そして山形ブロック独自の市民意識変革運動へと進化していきます。

山形ブロック協議会 アカデミー委員会 幹事

出席回数
4 回 / 4 回

活動の 概要・目的

【自律した説得力あるつよいJAYCEEの育成】を目的に年6回の事業を行ないます。

リーダーとして必要な『つよい体と精神』を鍛え、
『カリスマの人をまとめる力』を学びます。
青年経済人としては『ビジュアルによる人に伝える力』を体感し、
『説得ある確かな見識による先見性』を養います。
今を生きる者として、自身のプライドにかけ、自らの人生へ真摯に向き合い続けることのできる
真につよいJAYCEEの育成を年間を通して行なっていきます。

活動の 中間報告

安里会頭をお迎えして開催した開校式から、これまでに大矢講師をお迎えしてのビジュアルセミナー、羽黒山での山伏修行体験、天地人で活気あふれる米沢での先見性を養うビジネスセミナーを開催してきました。事業内容は各事業ともに中身の濃い充実したものになっているのですが、出席率が芳しくないため参加促進につなげるべく、事前の告知やJCへの興味を持ってもらうための情報などを盛り込んだ
スタッフによるリレー形式のブログも開設しました。
あと1回の事業と閉校式を残すのみとなっておりますので、更なる熱意をもってアカデミー生の参加を促していき、【自律した説得力あるつよいJAYCEEの育成】につなげていきたいと思っております。

山形ブロック協議会 会員大会運営委員会 副委員長

出席回数
7回 / 7回

活動の 概要・目的

会員大会運営委員会は第42回山形ブロック協議会会員大会 鶴岡大会の運営を担う委員会であり、鶴岡大会では、天性開花～自己進化への挑戦～というスローガンのもと運営してまいりました。地域住民の皆様には大会を通じてJCの存在意義や活動を理解して頂くとともに、郷土山形の発展のために何ができるのか気づきや学びを得てもらい、JCメンバーにはブロック協議会の一年間の事業の取り組みや活動に対して意思統一をはかり、また「自律したつよい山形の創造」にむけて自身の天性を認識し、さらなる挑戦をするためのきっかけづくりとなることを目的といたしました。

活動の 中間報告

去る7月12日にグランドエル・サンにて第42回山形ブロック協議会会員大会鶴岡大会を執り行いました。式典・分科会・メインフォーラム・大懇親会の四部構成で行われました。第一分科会は組織連携推進委員会、第二分科会はブロック進化創造委員会により開催され、メインフォーラムは「ラグビーに学ぶリーダーシップとつよい組織作り」をテーマに平尾誠二氏にご講演頂きました。大懇親会は会場を移し、出羽庄内国際村にて行いました。今後の委員会活動は、報告事項を作成し、次年度東根大会へしっかりと引継ぎをする予定です。

山 形 ブ ロ ッ ク 協 議 会

やまがた協働運動実践委員会 委員

出席回数	
5 回 /	回

活動の 概要・目的

1. 昨年から継承して山形ブロック17LOMによる「環境」に関する協働運動を実施することによって、より大きな効果を発揮できると考え、ブロック協議会のスケールメリットを活かした県域に対する運動を実践して行く。このような継続性、一貫性のある運動を推進することで、より多くの市民、団体を巻き込んだ市民意識変革運動へとつなげていくことを目的とする。
2. 日本JC及び東北地区協議会と連携し、JCプライド伝播による会員数「45,000人必達プロジェクト」の支援・協力として、ブロック協議会独自の行動目標を掲げ、各LOMの会員拡大を支援することを目的とする。

活動の 中間報告

1. 6月21日(日)山形ブロック17LOMが「ふるさとOMOIYARIプロジェクト2009」と題して県内各所にて同時に一斉清掃活動を開催。マスメディアも利用した事前広報活動の実施、新たな市民・団体へのポスターやチラシを使った広報活動、継続事業ということもあって、昨年よりも多数の参加者に集まって頂きました。活動の内容は鶴岡会員大会の場にて映像にて紹介されました。
2. 各LOMの現状をまず把握し、それぞれの活動方法やツールを取りまとめ、また各LOMにおいて問題点がないかを認識した上で、ブロック協議会の活動としてどんなことができるのかを検討しています。

出向者報告 渡部 芳幸

山形ブロック協議会

アカデミー委員会 委員

出席回数

4 回 / 4 回

活動の 概要・目的

アカデミー委員会では、自律した説得力あるJAYCEEとなる事を目的に活動しております。我々は、JC 運動を通しこれからの時代を生き抜くために必要な力を身に付け、それを社会に還元していく担いがあります。その為には、リーダーとしてつよい指導力を発揮し、本当のつよさとは何か、人々を強烈に惹きつける真のカリスマとは何かを考え、青年経済人として、時代の変化に対応できる先見性のある優れた目と心を養い、未来を予見できる人材とならなければなりません。

自律した説得力あるつよいJAYCEE として、「修練」「奉仕」「友情」の三信条を基本とし、JC プライドを持ったつよい指導者を目指すべく委員会メンバーと共に学んでいます。

活動の 中間報告

今までに4回の委員会が開催されました。

寒河江で開催された開校式。天童ではクレア代表の大矢講師をお迎えしての「セルフプロデュース力を高めるビジュアルセミナー」。鶴岡では羽黒山での「山伏修行体験」。米沢では市内を市場調査しての「先見性を養うビジネスセミナー」です。

その中でも、私が特に印象に残っているのは地元鶴岡羽黒山で開催された「山伏修業体験」でした。こんなに近くにありながら、なかなか足を運ばない場所で、日常の裕福な生活から隔離された質素で厳しい山伏修行を通し、全てのものへの有難さと、最近自分に足りないのは「忍耐力」と気付かされました。残りもう2回委員会がありますので、皆勤賞を目指し残りすべて出席いたします。

山形ブロック協議会 アカデミー委員会委員

出席回数
3 回 / 4 回

活動の 概要・目的

- ① 平成21年1月31日(土)寒河江市 第1回「アカデミー委員会開講式」
- ② 平成21年3月7日(土)天童市 第2回「ビジュアルセミナー」
目的: 自立したつよいJAYCEEへの意識改革、委員相互の連帯感と資質の向上。
- ③ 平成21年5月16日(土)・17日(日) 第3回「山伏体験修行」鶴岡市
目的: 委員相互の連帯感と資質の向上。日本古来からの山伏の精神文化を実際に体験することで、自分自身を見つめなおすこと。
- ④ 平成21年8月1日(土)米沢市 第4回「先見性を養うビジネスセミナー」
目的: 米沢市内を自らの足で市場調査を行い、新しい時代に通用するクリエイティブな発想を養うこと。

活動の 中間報告

平成21年1月31日のアカデミー委員会開講式に始まり、現在まで計4回の委員会が実施されました。

第1回委員会「開講式」

第2回委員会「ビジュアルセミナー」セルフプロデュースするには、自身のウイークポイントを十分に把握することが大切であることを学びました。

第3回委員会「山伏修行体験」山伏修行体験を通じて委員会メンバーの連帯感を学びました。又、過酷な山伏修行体験が終了した後には、達成感と世の中全てのものに対する有難さを深く感じ取ることができました。

第4回委員会「先見性を養うビジネスセミナー」は、都合により出席できませんでした。

今後委員会閉講式迄には、自立した説得力あるつよいJAYCEEへ自身をCHANGEすることができたと言える様に、更に邁進する所存です。

山形ブロック協議会 アカデミー委員会委員

出席回数
3回 / 4回

活動の 概要・目的

自律した説得力あるつよいJAYCEEの育成を目指すための事業。
人にたよるのではなく、自律をきちんとした強い精神、考えを出来るようきたえ、勉強する。

活動の 中間報告

寒河江にて、開催した開校式で、安里会頭の今までの生き方などについて、熱く語って始まったアカデミーですが、これまで4回の内、2回出席しました。1つは、ビジュアルセミナーで、大矢講師のもと、まずは、見た目から、きちんとしなければいけない等、意見交換をした。2つ目は、山伏修行体験で、日頃、恵まれた環境で、生活してきた自分を戒めて、生きるありがたさ、食べ物1つのおいしさを感じることができた。

出向者報告 佐藤正勝

山形ブロック協議会

アカデミー委員会委員

出席回数

2回 / 4回

活動の 概要・目的

目的としまして、先輩の話を聞いて、入会3年以内でないと参加出来ないと言う事、出向した先輩の話を聞くと、とにかく楽しかったという事、出向出来なかった先輩は、行けばよかったと言う残念な声。

アカデミー委員会とはいったいどんな所？目的より興味深く出向させて頂きまして、1月の開校式・出席、3月の委員会・出席、5月の委員会・欠席、7月の委員会・欠席、少し残念な結果の状態です。

活動の 中間報告

1月の開校式、なんと会頭の講演。

戦後やっと沖縄が日本に返還された頃、沖縄に生まれけて裕福では無かった幼少の頃から今現在までの生きざま恥じる事無く熱く話して頂きました。自分自身が、まだまだ未熟であるということ、認識されました。3月の委員会、Creer代表取締役社長 大矢氏の講演。

身だしなみの大切さ、他人から見た自分の第一印象、良い部分、受け入れなければいけない部分、普段言ってもらえない事を真剣に言って頂き、改めて自分を再確認する事が出来ました。

5月、7月の委員会、欠席で、残り9月の委員会、11月の卒業式、2回ですが悔いを残さないよう積極的な参加と、より多くの人との交流をして行きたいと思います。

山形ブロック協議会 ブロック進化創造委員会 委員

出席回数
9 回 / 12 回

活動の 概要・目的

ブロック進化創造委員会では、公益法人取得支援事業・公開討論会支援事業・青少年育成事業・ブロック協議会の組織進化の検証と内容盛り沢山で活動を行っております。公益法人取得支援事業の目的は、これまでも地域のために貢献しているが、さらに自らを高めるために公益社団格取得を目指して欲しい。そのためにLOMの現状調査を行い支援内容をまとめ意見や提案をおこなう。公開討論会支援事業では、公開討論会を行うことでLOMの公益性を高め、市民から評価される。LOMメンバーのやる気にもつながる。主催LOMへ公開討論会開催の支援や当日は広報車での街宣活動などを行います。青少年育成事業では、青少年に何かをしてあげるのではなく、共にまちづくりを行う関係を築く事で地域を知り、地域への愛情を育む。ブロック協議会の組織進化は、これまで以上に県内17LOMに貢献できる組織になれるよう進化する。各LOM同士の大きな架橋となるブロック協議会を目指す。

活動の 中間報告

まず公益法人取得支援事業では、2月に各LOMに訪問しアンケート調査を行い、問題点を抽出。調査結果をまとめ、情報提供を行い支援。東北地区協議会 新公益社団法人制度改革セミナー参加。公開討論会支援事業は、12月21日(日) 山形県知事選挙公開討論会の支援。2月27日(金) 遊佐町長選挙公開討論会の広報活動。衆議院選挙山形2区公開討論会 高畠会場。衆議院選挙山形2区公開討論会 河北会場。衆議院選挙山形3区公開討論会 庄内会場。衆議院選挙山形1区合同個人演説会 山形会場。青少年育成事業では、青少年ボランティアグループと参加できる事業を行うLOMの間に委員会が入り連絡・調整を行った。そして6月21日に各LOMで行われた「やまがた協働運動」に参加していただいた。その後も、参加可能な地域の事業へ参加を促す。また山形UCの活動のサポートや、参加した青少年ボランティアグループとのネットワークの支援を行っております。7月12日に行われた「山形ブロック協議会会員大会鶴岡大会」において、分科会を行った。

山形ブロック協議会 会員大会運営委員会 委員

出席回数	
回 /	回

活動の 概要・目的

会員大会鶴岡大会の成功と、主に式典の運営。鶴岡らしさを出すとともに、チャレンジ精神でメンバーが色々な事に挑戦する。”天性開花”

活動の 中間報告

県内各地で何度も会議を重ねて、会員大会鶴岡大会大成功できました。優秀な知恵と行動力での運営の仕方など、大変勉強になりました。

山形ブロック協議会 会員大会運営委員会 委員

出席回数	
回 /	回

活動の 概要・目的

今年度、山形ブロック協議会は「無限なる可能性への挑戦！志高きJAYCEEによる自律したつよい山形の創造！！」を掲げ、JAYCEEへの意識改革に取り組み、延いては市民意識改革を目指しています。その活動の一つとして、第42回山形ブロック協議会会員大会鶴岡大会が開催されました。この大会では「天性開花～自己進化への挑戦～」をスローガンに、JAYCEE一人ひとりが青年経済人として個々の自律性を高め、自己進化を図り、更には地域社会におけるJCの存在価値を高め、自律したつよい山形の創造を目的とし執り行われました。

活動の 中間報告

第42回山形ブロック協議会会員大会鶴岡大会が去る7月12日にグランドエル・サンにて開催されました。当日は、式典・分科会・メインフォーラム・大懇親会が行われ、式典に続き、分科会は、組織連携推進委員会とブロック進化創造委員会により執り行われました。メインフォーラムでは、平尾誠二氏を招き「ラグビーに学ぶリーダーシップとつよい組織作り」をテーマに講演して頂きました。大懇親会は出羽庄内国際村にて盛大に行われ、他のLOMメンバーや多数の市民の方に参加して頂き、市民意識改革に繋がる会員大会になったものと確信しております。最後に、この経験をLOM・会社での活動にいかし、より一層精進してまいります。貴重な経験をさせて頂き有難うございました。

山形ブロック協議会 会員大会運営委員会 委員

出席回数	
回 /	回

活動の 概要・目的

会員大会運営委員会は第42回山形ブロック協議会会員大会 鶴岡大会の運営を担う委員会で、鶴岡大会では、「天性開花～自己進化への挑戦～」というスローガンのもと運営してきました。JCメンバーにはブロック協議会の事業の取組み方や活動に対して意思統一をはかり、一般の皆様には大会やメインホーラムでの講演を通してJCの活動を理解して頂くと共に、これから地元の発展のためには何ができるのかを感じ得て頂ける様活動しました。

活動の 中間報告

私は今年度、山形ブロック協議会会員大会運営委員会に出向させて頂きました。入会2年目で何をするのか？わからないまま、とにかく参加しようと心がけておりましたが、残念ながら全てに出席とはいきませんでした。しかし、出向を通しての交流や委員会の事業に向けて、JCとは何をやるものなのか、話し合い、考え、自分なりの考えを持つ事が出来たような気がします。そして7月12日に行われた会員大会におきましては、多くのメンバーや一般市民に参加して頂きました。「今までの大会とは違ったものにしたい」と言う思いは各個人の魅力を存分に発揮しアピール出来た、まさに「天性を開花させた」大会だったと思います。貴重な経験をさせて頂き、有難うございました。

出向者報告 橋本晃幸

山形ブロック協議会

総務委員会委員

出席回数

1 回 / 回

活動の 概要・目的

今年度の総務委員会は、山形ブロック協議会での円滑な会議の準備などです。

活動の 中間報告

山形ブロック協議会での、会員会議所会議、正副会長会議、役員会議の議事録の作成です。